

東日本大震災

名古屋って、あったかくて
いいまちだなあ。

寄り添い、ゆっくりと、
でも全力で応援します。



被災者支援ボランティアセンターなごやお知らせ

平成 29 年 2 月 1 日発行 (第 79 号)

本お知らせは、名古屋市に避難されてきた方に役立つ情報をお伝えするため、毎月 1 日に発行しています。みなさんのご意見・ご感想をお待ちしています。

発行：東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや
〒462-8558 名古屋市北区清水4-1 7-1 5 階
名古屋市社会福祉協議会 ボランティアセンター内
電話：070-5587-7153(平日 9～17 時)
FAX: 052-917-0702
Eメール shien-vc@nagoya-shakyo.or.jp



まだまだ寒い日が続きます。雪が降る日もあると思いますが、2月4日は立春。暦の上では旧冬と新春の境目にあたり、この日から春になります。梅の花が咲き始め、徐々に暖かくなり春が始まります。春を迎えるワクワクを感じながら、残り少ない冬を楽しみましょう♪



今時の節分は



上に書いたように、2月4日は立春です。旧暦では、この日が1年の始めとされていたため、本来季節の変わる前日を指す「節分」という言葉は、一般的に立春の前の日を指します。

季節の変わり目は鬼が出ると考えられていたため、節分の日には宮中行事の追儺(ついな)や寺社が豆打ちの儀式が行われ、それを庶民が「豆まき」として行うようになりました。

豆まきは、福豆(炒った大豆)を準備し、夜に「鬼は外!福は内!」と言いながら、一家の主人が豆をまきます(年男・年女、厄年の方が豆まきをする場合もあり)。まき終わったら、最後に1年の厄除けを願い、自分の年齢より1つ多く(数え年として)豆を食べます。ただ、各家庭でできたルールも多く、家族のイベントとして楽しんでやってもらえば良いとも言われています。

なお、豆まきのイベントは、全国色々なところで行われますが、名古屋や近郊だと、尾張四観音(甚目寺・笠寺・竜泉寺・荒子)や大須観音などで行われるようです。

ただ、かつては節分と言えば「豆まき」や「ヒラギいわし」(鯛の頭を焼いて柗の枝に刺し玄關に飾る)でしたが、近年ではこれに匹敵するほど「恵方巻き」が取り入れられています。

「恵方巻き」の発祥は諸説あり、信憑性も定かではないようですが、大阪の商人たちが商売繁盛と厄払いの意味合いで巻き寿司を丸かじりしたことからはまったという説があり、主に大阪で普及していました。近年、スーパーやコンビニエンスストアなどで取り上げられ、全国的に知られるようになり、今ではお店にもたくさんの恵方巻き関連商品が並び、多くの人に食べられています。

なお、「恵方巻き」の食べ方は、太巻きを1本用意し、今年の恵方「北北西」を向いて、願い事をしながら黙々と最後まで食べるということだそうです。

季節の催しは、由来を聞くと面白く、生活に彩りを添えられます。上手に取り入れてみてはいかがでしょうか。



12月にお送りしたQUOカードと同封したアンケートについて、多くの方からご回答いただきました。ありがとうございました。その中で、今後の住居について迷っている方も多いようでしたが、この3月で住宅無償提供が終了する方は、継続入居の手続きや退居される方は新居探しなど、お早めに手続きをお進めください。

♪次回のお茶っこサロン♪

毎年恒例のお花見会です!今回は、名古屋城を眼下に望む高層階にあるホールが会場です。ステキな音楽を聴きながら、お花見を楽しみましょう♪

日時:平成29年3月26日(日) 10:30~ (受付:10:00頃~)

会場:愛知学院大学 名城公園キャンパス (北区名城3-1-1)

★詳細は、お知らせ3月号でご案内します。

